



つくしだより

平成29年10月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション 301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2017.10.15 第327号

「心身障害者福祉手当」

実態調査が終了です

都連副会長 本田 道子

家族会の代表の方あてにファック
スが流れたのは8月に入って間もな
くのこと。それから我が家のファッ
クスの大活躍が始まりました。

その結果次のがあきらかにな
りました。

① 東京都は「心身障害者福祉手当」
(略して福祉手当)は精神障害
者は対象とは考えていないこと。

② それに対して、一部の区と奥多
摩町が東京都が実施するまでの
間の「つなぎの期間」としての
「手当」が支給されていること
でした。

手当の支給されている区と手当の
額は以下のようにになりました。
いずれも1級のみで月額です。

- ① 文京区 5000円
- ② 北区 10000円
- ③ 足立区 4000円
- ④ 品川区 8500円
- ⑤ 大田区 5000円
- ⑥ 世田谷区 5000円
- ⑦ 杉並区 5000円
- ⑧ 奥多摩 1・2級 5000円

この手当は東京都が、身体障害の
1・2級と知的障害の1・3度の方
には、月額15,500円を手当と
して支給しているものです。

精神障害者がなぜ対象とされてい
ないのかについて東京都からは明確
な返答がされてはいません。

調査は都内23区と30の市町村の
全て(島部は除く)を調べました。

手当はこの他にも、身体の3級と愛
の手帳の4度を対象としてそれぞれ
の区市町村で北区の1万3500円
から中野区の2,500円まで、幅
があるものの調査をした53全ての
区市町村で支給されております。

私たち東京つくし会は医療費につ
いても調査をしております。

「東京に暮らす精神障害者の医療費
の負担度に関する調査」としてピン
クの表紙の本になりました。その中
では家族に頼って生活せざるを得な
い実態が見えています。家族に遠慮
して生活している、と書かれている
のです。親としてはせつない報告書
です。

今回の調査の中に次のような報告

がありました。

精神障がい者にも福祉手当がつく
ようになった家族会からです。

「30才男性。ひきこもる生活が続い
ていたが福祉手当が支給されるよう
になり自分で好きなDVDを買って
きて楽しんでる」とお母さんから
聞きました、ということでした。

福祉手当が「安心して使えるお金」
「自分のために使ってもいい」とい
う安心感ですね。

きびしい生活になってしまってい
る私たちの家族に「安心して自分の
ためにつかうことができる」手当が
あれば、と私は思うのです。

各家族会のみなさま

調査にご協力いただきありがとうございます。
ございました。

そして今回の調査報告書をぜひ活
用してください。各区市町村の30年
度予算にまだ間に合います。



「メリデン・ジャパンファミリーワーク
プロジェクト キックオフイベント」に参加

都連会長 眞壁 博美

9月24日(日)、東洋大学白山キャンパス
において、標題のイベントがありました。

「一般社団法人メリデン・ジャパンファミリー
ワークプロジェクト」は、「精神に障がいのある人・家族をまるごと支援する訪問家
族支援を日本へ」を合い言葉に今年2月に立
ち上げられました。「みんなねっと」では、¹³
年より英国メリデン版訪問家族支援を普及
する活動に取り組みを開始し、5名の方を基
礎コース研修に送り、さらに3名が上級のト
レーナーズコースを修了し、日本での実施体
制が整いはじめました。そこで、日本のどこ
に住んでいても、希望者がこの支援を受けら
れる体制を1日も早く実現するために、「み
んなねっと」から「メリデン・ジャパン」へ
事業を引き継いでもらうことになりました。
今回は「入門研修」で、参加者には「入門
研修修了証」が渡されました。

研修内容は、(1)日本の精神保健医療福祉の
現状、(2)家族支援の重要性、(3)なぜ訪問家
族支援が必要なのか？(4)メリデン版訪問支
援の概要、(5)今後のメリデン・ジャパンの活
動(研修を中心に)、(6)メリデン版訪問家族
支援を日本で試行してみての報告等、盛りだ
くさんの内容でした。私は入門研修に「家族

支援の重要性」というテーマで伊藤千尋氏
(淑徳大学)と共に話させていただきました。

私は、娘が中学3年生で統合失調症を発病
し、高校受験も失敗し、途方に暮れてしま
いました。その時、娘の中学校の養護教諭のア
ドバイスで上野高校通信制と府中市にある
「ソフィア学院」というリースクールに通
わせました。たまたま素敵な養護教諭に巡り
会えたことで、娘は学業を続け、孤立せずに
過ごせましたが、すべての当事者や家族に寄
り添い、希望を実現する支援体制がきちんと
できるとありがたいという話をしました。

第一回多摩地域ブロック会議報告

都連理事 安藤 万寿代

・日時 平成29年9月30日(土)

13時半～16時

・場所 府中市 ふれあい会館第一会議室

・参加団体 17団体(25名)

今回の司会は植松和光氏(都連副会長・シ
ュロの会会長)が行い、眞壁会長の挨拶で始
まりました。

一、都連からの報告(眞壁会長より)

1、心身障害者医療費助成制度(マル障)の
取り組み状況についての報告。3月にマル障
の請願が皆様のご協力ですべての都議会にお
いて、満場一致で通りましたので、今後は3級まで適
用される様に皆様の一層のご協力をお願い
しますと話されました。

2、平成30年度予算要望についての報告

新年度への予算要望は2点あり、①マル障の
実現の件②西多摩地区に多摩総合精神保健
センターの支所を設置の件です。各政党との
ヒアリングと都庁へ要望書を提出しました。

3、「医療費の負担度調査」に関する報告
書について。如何に、当事者が経済的に苦し
い状況であるか、特に医療費の負担が大きい
との事です。(1冊500円)

4、東京つくし会 50周年記念行事について
○記念式典・祝賀会
・期日 平成30年2月23日(金) 13時～17時
・会場 中野サンプラザ(中野駅下車五分)
・各単会から2名・参加費 5000円

○「記念誌」 3月末日発行

二、協議事項(中住理事より)

①精神保健福祉法改正の動きについて
②精神科病院における拘束問題についてお
話がありました。

次回は 平成30年3月3日(土)



家族会訪問記

―青梅市の家族会「ほっと・スマイル」―

都連副会長 川崎 洋子

9月16日の土曜日、雑踏の新宿駅から青梅線特快に乗りました。立川駅を過ぎたあたりから、乗客も少なくなり、降りるときはドアはボタンを押さなくては開かないことを知りました。降り立った河辺（かべ）駅はとても静かな駅で人影も少なく、なんとなく空気もきれいなあと感じました。ここに住めば心の病なんて、吹き飛ばされるんじゃないかな？と思うほどです。

会場までは中住氏の車で送っていただきました。大雨が予想される天候でしたが、本人の参加も有り、24名の方が参加されました。講演会でなく、「みんなて話そう会」としました。

一人一人のお話は、それぞれさまざまです。父親との関係性、姉妹の不協和音、通院・服薬をしないことへの心配、もう本人に任せている等々、どの家族会でも話題になることばかりです。でも、ここでは参加者の体験から、「こうしたら？」「それはよくないかも？」など、積極的な意見交換がされたことがとても印象に残りました。「服薬はとて必要なことを僕の体験からお話してもいいですよ」と参加本人から話がありました。又、家族関係については、家族は距離をとること、ゆっ

くり余裕をもって対応することの必要を話し合いました。

話は盛り上がり時間が足りないほどでした。会終了後もすぐには帰らずに、ところどころで話し合いがなされ、お互い助け合っていく姿が見受けられました。家族会の役割を改めて感じた会でした。

青梅市郷土博物館



精神障害者の雇用に期待！

都連副会長 川崎洋子

平成30年度から「障害者雇用促進法」が改正され、法定雇用率に精神障害者が加わることに成りました。

長年の要望であり、「障害者差別解消法」があと押ししたこともあります。しかし、精神障害者の雇用に関しては、課題が多くあります。障害者雇用については、それぞれの障害に応じた支援策が講じられています。

合理的配慮と称されるもので、例えば身体障害者では、車いすでも仕事ができる環境づくり、知的障害者にはわかりやすく仕事をおしえるなど、それぞれの障害者が仕事しやすいような工夫がされています。

では、精神障害者へはどのような支援が必要でしょうか。従来考えられていることは、通院を認める、休み時間をとるなど、一般的なものです。しかし、精神障害者はそれぞれ個々に対応が必要です。一番大きなことは不安を解消することです。仕事をしていて、これでいいか、自分のしていることでもいいかなど、常に不安を感じている人が多いです。

精神障害者への合理的配慮とは、人的支援といわれています。職場で困ったときに相談できる人が身近にいること、必要に応じて主治医と連絡をとることなど、チーム体制で支えることが必要です。そのためには、財源の確保が不可欠です。

いままでの精神障害者は、なかなか仕事につけず、生活保護を受けている人が多いですが、彼らからは収入を得て、堂々と納税者として生活したいという声も聴きます。

精神障害者が適切な支援をうけて仕事をし、自分らしい生活を送ることができるよう社会の仕組みが早急に実現できるようにしていかないと考えます。



理事補佐2か月の報告

都連理事補佐 大山 竹彦

理事補佐に選ばれました2か月、気持ちの上でも大変忙しく過ごしております。今回、「理事研修会」を持って頂き理事会の動き、理事の方々の役割を教えてください、心強く勉強させていただきました。

東京つくし会評議員を数年努めて来ましたので、つくし会の動きは少しは分かっていたつもりでしたが、理事の内側から見ますと、動きの広さ、速さ、密度にビックリ、しかも理事の皆さんは出身母体の会長・理事長の役員をしっかりと努められての活躍です。

早々の活動は、マル障について、東京都への要望活動について、多摩ブロック会議の役割分担、東京つくし会50周年記念行事の式典、祝賀会の映像担当と矢継ぎ早の割当てです。

最初の動きは、マル障のヒヤリング参加です、参加者46名。参加会長の方々の言葉に身を固くして聞き入り、活動の成果と共に活動そのものが誇りを与えているように感じられ、私自身の勉強ともなり、良い時期に理事会に参加できたと再確認し、なんともうれしかぎりです。



講演会のお知らせ

☆11/11(土) 当事者・家族の自立と回復を目指して

講師: 東洋大学ライフデザイン学部教授 精神科医医学博士 白石 弘巳氏
会場: 品川区役所第3庁舎 6F講堂 主催: 品川かもめ会 ☎03-3458-6908

☆11/11(土) 地域で生きるー診療の現場から

講師: 新宿東メンタルクリニック院長 三浦雄太氏 会場: 新宿区立障害者福祉センター 主催: 新宿フレンズ ☎03-3987-9788

☆11/24(金) 本人と家族が地域で安心して生活するために～気持ちに寄り添える

支援とは～ 講師: 精神科医 白石 弘巳氏 会場: 高円寺障害者交流館 1F
主催: 杉並家族会 問合せ: あおば福社会リブレ ☎03-3392-7946

☆11/26(日) オープンダイアログ～開かれた対話～ 場所: 青梅市役所2F会議室

講師: 精神科医 森川すいめい氏 主催: 青梅精神障害者家族会 ☎090-7181-9856

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆賛助会費☆ (敬称略)					
小松原 和明	3000円				
安田 學	2000円				
匿名希望	2000円				
ひとみクリニック	5000円				
明神下診療所	5000円				
ありがとうございます。					

編集後記

海外からのニュースで、日本の子供たち

ちに英語講師をしていたニュージール

ランド人の青年が日本の精神科病院で、

措置入院でベッドに5箇所の身体拘束を

受け、10日間入院後、心肺停止状態で救

急病院に搬送されるも死亡したことが

判明した。死因は長時間体を動かさない

場合に起きるエコノミークラス症候群(深

部静脈血栓症)による肺塞栓(はいそくせ

ん)を起こしていた可能性があるというこ

とです。なんと痛ましいことでしょうか。

日本では、日常的に行われている精神疾

患者の身体拘束だから、マスキミの話題

にもならない、病院も特別に説明もしな

い。そのまま死亡退院で葬りさらされて

まいます。しかし、今回は、海外からこの

出来事が日本に入ってきました。

私はとてもショックでした。

精神疾患患者の多くの方は一度は精神科

病院への入院を経験された人が多いと思

います。そして、その人達から聞こえてく

ることは、もう二度と入院はしたくない

という言葉です。およそ一般病院とはか

け離れた閉鎖病棟、そして身体拘束の経

験がトラウマとなり、治療のための「入

院」という言葉を聴いただけで、入院を拒む、

そんなことがあつていいのでしょうか。

皆さんはこのことをどう思いますか。

都連副会長 植松和光